



〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000

発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎,
編集責任者: 広報委員長 中村 雅典



令和2年度卒業式および学位記授与式が開催されました

歯学部長 榎 宏太郎



令和2年度の昭和大学卒業式が、3月16日(火曜)午前10時からパシフィコ横浜「国立大ホール」において執り行われました。今年度の卒業生は、医学部(89回生)124名、歯学部(39回生)92名、薬学部(53回生)168名、保健医療学部(21回生)151名でした。

当日は、やや風が強かったもののとても暖かく快晴に恵まれて、会場から見える空の青さと海の青さが鮮やかな日となりました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため、御父兄の参加は1名まで、在校生の祝福は見合わせて頂き、広いホールに一つおきに着席のうえで式の進行も簡素化して執り行われました。

開式の宣言後に校歌を斉唱し、その後に厳かな雰囲気の中、久光学長より、各学部の総代に学位記が授与されました。歯学部は陸田愛美さんが総代として受け取られました。

次に、久光学長より、学長告示の前に異例ではありますが前置きされ、卒業式を控えた卒業生でコロナ感染予防のために禁じられていたはずの旅行や会食が行われていた事例が報告され、感染予防に関して厳しく注意が促されました。社会の範となるべき医療人は個々の行動を律すべきであるという本学の強い意志を参加者全員が再認識致しました。

そして、学長告示では、患者の『患』の字に表される、病める者の身体だけではなく串の刺さった『心』も治す大切さを述べられました。

続いて、小口理事長から、「真心と病む人々への慈しみを持ち続けることを忘れず、医療人として生きる

ことへの誇りを胸に持ち続けるように」との力強い御祝辞を頂きました。

二人の先輩のお言葉から、まさに、巣立つ皆さんが医療人として生涯持ち続けるべき大切な教えを心に刻むことができたものと思います。

その後、歯学部では、上條賞が陸田愛美さんへ、歯学部長・同窓会賞は関沙姫さん、田畑友寛君、山田明佳さんに贈られました。上條旗ヶ丘賞は伊藤悠吾君、最優秀スチューデントインストラクター賞は鈴木佑理さんに贈られました。さらに、父兄会会長からも祝辞と共に記念品を賜りました。

在校生代表として花澤聖君から若々しい未来を期待する送辞のあと、卜部翼君が、卒業生を代表して本学で学んだことを最大に活かして医療人として活躍することを誓う答辞を返されました。

そして、卒業生代表の増田亜由美さんが「昭和大学宣言」を宣言されて、閉式しました。

最後には、応援指導部からのチアリーディングと演武が卒業生へのエールとして送られました。

続いて、隣接のパシフィコ横浜「アネックスホール」にて行われた学位伝達式では、歯学部長挨拶の後に、各人に学位記が授与されました。

その後に、学生表彰の賞状と盾がそれぞれの受賞者に手渡されました。

小原同窓会長からもご挨拶を頂き、前述の方々へ同窓会賞表彰が授与されました。特別表彰として、歯科医学生賞:植田紫衣生さん、大塩葵さん、教育委員長賞:五十嵐朱音さん、学生部長賞:徳増梨乃さん、宮本聖さん、デンツプライ賞:藤井美莉さん、モリタ補綴賞:池端陽介君、ストローマンアワード:辻上陽平君、日本小児歯科学会学生優秀賞:内藤菜弓多君、が表彰されました。

また、マルチドクタープログラム修了証が高見歯学研究科長より大塩葵さんに授与され、卒業生を代表して吉岡慶太郎君から記念品目録が贈呈されました。最後に、飯島教育委員長からご挨拶頂き、閉会を迎えました。

今年も、新型コロナウイルスにより開催が危ぶまれましたが、やはり、卒業式と学位記伝達式は挙行されて良かった、というのが正直な印象です。皆さんの今後の益々の発展と実り多き人生を祈念致します。もし、道に迷ったりした時は、いつでも、母校に相談に来てください。

令和2年度大学院修了式が挙行されました

歯学研究科長 高見 正道



令和3年3月23日午後4時より、令和2年度大学院修了式が昭和大学上條記念館において挙行されました。昨年に続いて今回も新型コロナウイルス対策のため、ご父母は1名まで参加可能とし、時間が短縮されて開催されました。今回は、医学研究科32名、歯学研究科22名、薬学研究科10名に博士の学位が、保健医療学研究科8名に修士、3名に博士の学位記が授与されました。歯学研究科の上條賞は歯科補綴学の小原大宜さんが受賞しました。

久光学長の告辞と小口理事長の祝辞の後、歯学研究科長の私は「今日から皆さんは自らを研究者と名乗ることができ、学位記がその証拠である。しかし、研究者としての一歩を踏み出したばかりであり、今後、海外留学などの研鑽を積むことで、周りから“一流の研究者”と呼ばれるように努力してほしい」と述べました。

昭和大学宣言と校歌斉唱の後、修了者に研究科長から学位記が一人ずつ手渡され、修了生と記念撮影をおこないました。博士となられた修了生の皆さんのご活躍を大いに期待しています。

大学入学共通テスト利用入試(B方式:地域別選抜)二次試験が実施されました

歯学部入試常任委員 山本 松男

令和3年度歯学部大学入学共通テスト利用入試(B方式:地域別選抜)が、2月28日(日)に旗の台キャンパスで実施されました。

大学入学共通テスト利用入試(B方式:地域別選抜)とは、全国を6つの地域(「北海道・東北・北関東」「南関東」「東京」「中部」「北陸・近畿・中国」「四国・九州・沖縄」)に分けて、その地域ごとに入学者を選抜する入試です。入試科目は国語、社会、理科、数学、英語で、社会は地歴または公民の2教科10科目から1教

科1科目選択、理科は物理、化学、生物から2科目選択、英語はリスニングを含むとしています。地域は出身高校の所在地となり、幅広い知識を持つ多様な人材を期待したもので、各地域上位合格者1名には初年次授業料を免除する特待制度を適用します。

今回で実施4年目となり志願者は5地域から15名の出願がありました。

一次試験は、1月16日(土)、17日(日)の大学入学共通テストを各自受験し、その結果を基に2月22日(月)に一次試験合格者を発表しました。二次試験当日はコロナ感染症による非常事態宣言が発出された中での実施でしたが、天候にも恵まれ、大きなトラブルもなく無事終了することができ、3月1日(月)に合格者の発表をすることができました。

コロナ感染症対応に忙殺される中で、入試広報活動および入学試験の運営・実施にご協力をいただきました教職員の皆様に、心より厚く御礼を申し上げます。

残すところ、3月7日(日)の一般選抜Ⅱ期のみとなりましたが、優秀な人材を本学に入学させることができるように、引き続きご協力をお願いいたします。



選抜Ⅱ期入試が行われました

入試支援課 本澤 直樹

令和3年度歯学部一般選抜入試(Ⅱ期)が3月7日(日)に、旗の台キャンパス4号館にて、薬学部、保健医療学部と3学部合同で実施されました。

今年度の志願者数は、8名の募集に対して126名とたくさんの方から出願がありました。

試験当日はあいにくの雨模様でしたが、交通機関等の乱れや各試験場等の大きなトラブルもなく終了することができました。学力試験に続き、面接試験の運営業務にご協力を賜りました教職員の皆さまに心から御礼申し上げます。

そして、3月9日(火)午後3時に合格者8名(男1名、女7名)を発表いたしました。多くの優秀な学生の入学と歯学部の発展がますます期待されます。

これもちまして、令和3年度入学試験の全日程が無事に終了いたしました。ご多忙の中、春の入試広報活動から始まり、ご協力賜りました教職員の皆様には、心から厚く御礼申し上げます。次年度もご協力のほど、何卒よろしく願いいたします。

定年退職に際して

歯学部口腔解剖学講座 中村 雅典

平成13年に滝口励司、若月英三両教授の後任として杜の都仙台から花の都東京の昭和大学に赴任し、あっという間に退職となりました。当時からすでに始まっていた大学教育改革の流れの中で、後藤元歯学部長のもとで学生主体型学習の実践の方略として問題基盤型学習(PBL)を国内の歯学部としていち早く導入し、その後4学部連携教育の方略として採用されて今日に至っています。PBL導入にあたってはアデレード大学、南カリフォルニア大学や香港大学を実際に視察し、また、昭和大学独自の客観的臨床能力試験を行うことを決め、その実践のために香港大学に学部長はじめ教員の派遣に関与することが出来ました。学生の国際交流の開始にも当時の宮崎歯学部長と岡野教育委員長のもとで関与することが出来ました。

歯学部創立30周年記念事業では南カリフォルニア大学から私の恩師である Harold C. Slavkin 歯学部長と Eugene Sekiguchi 副学部長(2004年全米歯科医師会長)を招き開催したことや、昭和大学国際教育シンポジウムに留学時代同期であった Charles Shuler ブリティッシュコロンビア大学歯学部長を招聘し、開催できたことも大変うれしい思い出です。

講座の教育においては、平成19年に口腔組織学講座教授の佐々木崇寿教授が現役でご逝去されたことを受け、平成20年から講座が統合され、解剖学関連の教育をすべて行う体制となりました。講座所属の先生方のおかげで、今日まで滞りなく教育を行うことが出来たと思っています。

研究は学内外の先生方のご協力の下、東北大学歯学部ならびに大学院医学研究科時代からの研究並びに昭和大学赴任後に新たに開始した研究を充実した環境で遂行することが出来ました。研究には終着点はありませんので、これからもそれなりに続けていく所存です。

最後に、現在コロナ禍の環境で、教育の環境は大きく変化しています。昭和大学は学習者主体の教育をいち早く立ち上げ実践している大学です。この環境を選びすぐれた教育を実践するための契機と捉え、世界に誇れる優れた教育実践校として発展することを祈念して、退職のご挨拶といたします。



上條旗が岡賞を受賞しました

歯学部6年 伊藤 悠吾

この度は、このような名誉ある賞を受賞することができ、大変光栄に思っております。

私は、小学2年生からホッケーを始め、以来ホッケーが中心の日々を過ごしてきました。昭和大学を選んだ理由も、寮生活やチーム医療ではなく、ホッケーが強いというのが一番でした。

練習は深夜から始まり、帰宅するのは明け方4時頃。9時からまた講義という生活は、当然部活中心に回っており、勉強は疎かになる一方でした。

このような生活を送っていたため、2年次途中で成績が急降下。先生からは、「ホッケー選手になるわけではないのだから」とお叱りを受け、両親からも厳しい言葉をもらいました。これがきっかけで、私は自分の過ちに気づき、勉強にも注力するようになりました。優秀な友人の支えもあり、学年が上がるに連れて成績も向上させる事ができました。

その中でも部活には変わらず全力で取り組み、その結果、4年次に出場大会全てで優勝、MVPを受賞し、取材までして頂くことができました。優勝はもちろん嬉しいことですが、辛い勉強とを両立しながら勝ち取ったことに大きな意義があったのではないかと思います。ホッケーは団体競技であり、私1人では試合は成り立ちませんし、優勝することもできません。勉学においても、助けてくれる友人達がいなければ、ここまで乗り切ることができなかつたと感じています。

この賞を受賞し感じたことは、私は周りの人たちに恵まれ、そして支えてもらっていた、ということです。これからもその人たちを大切に、感謝と尊敬の念を忘れずに、歯科医師として精進していきたいと思っています。



行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 4月3日(土):大学院入学式
- 4月3日(土):防災訓練
- 4月12日(月):入学式

編集後記

歯科補綴学講座 三田 稔

厳しい寒さから一転、春風が快い季節となりました。年度末のご多忙の折、皆様から記事をご寄稿いただきましたこと、この場をお借りして深謝致します。